



## 愛着障害について N01

小中高と校種別にそれぞれの学校に出向いています。今回は、小学校に入学後、子ども達に見られる困った行動として次のような事が見られますが、実は、愛着形成と大きく関係しています。この愛着形成が出来ていないと中学生、高校生になっても様々な面で心配な状況も見られますので、知っておいた方が良いと考えました。そこで、愛着形成ということについて今月と11月の2ヶ月に渡ってお知らせしたいと思います。

### 【小学校入学後に見られる問題行動】

- ・叱っても不適切な行動をやめず、むしろもっとやる（愛情欲求エスカレート現象）
  - ・口の中に物を入れている
  - ・床に寝転ぶ
  - ・登校するのに送っても後追いをし離れられない（母子分離不安）等々
- これらは、みな愛着形成について見直してみる必要がある信号と考えて良いと思います。

### 3つの機能がある愛着形成

- ・「安全基地」機能・生まれたての赤ちゃんを考えてみて下さい。人見知り現象があります。知らない人への「不安」「恐怖」（ネガティブな感情）から守るのが「安全基地」機能です。
- ・「安心基地」機能・これは、その人のそばにいて「ほっとする」「落ち着く」「安堵する」「癒やされる」（ポジティブな気持ち）を生じさせるのが「安心基地」機能です。この「安心」という感情こそが愛着の中心です。
- ・「探索基地」機能・愛着形成の最後をになうものですが、この機能が働く条件が2つあります。一つは「安全基地」「安心基地」が確立されて、離れても大丈夫、という安全・安心が意識できる「分離」です。母子分離不安といった現象がこれにあたります。もう一つは、「安全基地」「安心基地」を離れても必ず戻ることができる「帰還」です。お迎え逃避という親が迎えに行くとわざと逃げ回る事が保育園や幼稚園で見られます。すんなりと帰れないのですが、子どもが成長すると深夜徘徊、放浪という問題行動になることもあります。



「探索基地」機能は、子どもは「報告すると喜んでもらってうれしい」と思い、親も「報告を聞いて喜び、つらさを共感する」という「感情」の機能でもあります。親に報告し、認めてもらえれば。さらに頑張れるため、学力テストの質問で「家の人が学校の話聞いてくれるか」に「はい」と応えた子どもの方が成績が良いという結果もあります。

愛着とは「特定の人に対する情緒的絆」といわれていますが、愛着障害とはその関係性のチャンスがピンチになってしまったために子どもたちに出てしまうということです。たとえば

- ・親「一体何回するの?」「今、忙しいの!後でね」と対応する→愛着形成のピンチ
- ・現代は物が溢れるため、以前は、子どもにとって親に勝る刺激は家庭に少なく、親に構ってもらえるまで待っしかなかった。今の時代は、「だったら、こっちがいい」と子どもが思う映像やゲームなどのメディア刺激が多すぎる。わざとそうしたメディア刺激に子育てに活用させている親も多いのが現実。

愛着障害という愛着の問題が増えているのは「親子の愛着形成を妨げる刺激が多すぎる」という家庭環境の問題でもあるわけです。続きは次号で・・・

**10月の来校日 10月4日(本日)・11日・18日、11月1日  
いずれも金曜日です**